

母性看護学実習

1. 目的

妊娠前からの健康づくりの必要性と、妊娠期から子育て期にある母子とその家族の支援を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。

2. 目標

- I. 妊産褥婦の身体的・心理的・社会的変化と新生児の生理的变化を理解する。
- II. 母子の経過に応じた適切な援助を理解する。
- III. 妊娠期から子育て期の切れ目ない母子の支援体制と多職種連携、看護者の役割を理解する。
- IV. プレコンセプションケアの必要性と看護者の役割を理解する。

3. 場所

滝川市立病院 産婦人科外来
砂川市立病院 3階西病棟
滝川市保健センター
子育て支援センター

4. 時間 2単位 90時間

5. 方法

- 1) 学内実習（48時間）
実習目標、行動目標に沿った事前・事後学習
①紙上事例を用いたアセスメントと技術演習
②母性看護学の看護師国家試験模擬試験、小テスト
③学内におけるプレコンセプションケアの指導企画と保健指導の実施
- 2) 滝川市立病院外来見学実習（6時間）
妊婦健康診査の見学と一部実施。妊娠経過のアセスメント
- 3) 保健センター見学実習（6時間）
子育て包括支援センター事業と母子保健事業の見学
専門職の対象への関わりを見学
- 4) 地域子育て支援センター見学実習（6時間）
対象の生活理解に向けたインタビュー
専門職の対象への関わりを見学
5. 砂川市立病院実習（6時間×4日＝24時間）

6. 評価

- 1) 母性看護学実習評価表に基づき行う。
- 2) 教員とのカンファレンスで評価し、60点以上で単位履修とする。

7. 行動目標と実習内容

目標Ⅰ.妊産褥婦の身体的・心理的・社会的変化と新生児の生理的变化を理解する。	
行動目標	実習内容
1. 妊婦または事例の妊娠経過と身体的・心理的・社会的変化について、アセスメントができる。	1) 既往妊娠・分娩・産褥経過 2) 妊娠各期における母体の身体的変化、心理・社会的変化、マイナートラブル、正常からの逸脱 3) 妊娠各期における胎児の発育 4) 日常生活への影響 5) 分娩・産褥・新生児への影響
2. 産婦または事例の分娩経過と身体的変化について、アセスメントができる。	1) ビショップスコア判定 2) 陣痛周期、発作時間、間歇時間 3) 胎児心音の変化(NSTまたはCTG読み取り) 4) 血性分泌物、破水、産痛、一般状態 5) 胎盤剥離徴候、胎盤娩出様式 6) 産褥・新生児への影響
3. 褥婦または事例の産褥経過について、アセスメントができる。	1) 退行性変化 子宮底高、硬度、悪露、後陣痛、会陰・外陰部、排泄、体重、バイタルサイン、検査データ、不快症状 産後の回復を促すためのセルフケア能力:活動と休息、栄養、清潔、排泄 2) 進行性変化 乳房タイプ、緊満、乳管の開口、乳汁の分泌、授乳方法、母乳育児への意欲 3) 心理状態・母親役割取得過程 愛着行動、母子相互作用、母親になることへの適応過程(受容期・保持期・開放期)育児行動、授乳の確立、マタニティブルー、産後うつ 4) 家族、役割関係 父親役割取得過程、家族員(きょうだい、祖父母など)の役割変化 5) 生活、社会環境 退院後の家庭環境、サポート体制、相談相手、仕事と子育ての両立
4. 新生児または事例の身体的特徴と生理的变化について、アセスメントができる。	1) 胎外生活適応過程における身体的特徴と生理的变化 ① 出生直後の観察 呼吸、循環、体温、アプガールスコア判定、成熟度、身長、体重、頭囲、胸囲、外表奇形、分娩外傷、産瘤、骨重積、反射、姿勢、臍 ② 新生児の適応過程(24時間以降) バイタルサイン、体重、哺乳状態、排泄、黄疸、筋緊張、皮膚、臍、産瘤、頭血腫、大泉門、新生児月経 2) 新生児の日常生活に関する情報 栄養、睡眠と覚醒、清潔、おむつ交換、保育環境、感染予防
目標Ⅱ.母子の経過に応じた適切な援助を理解する。	
行動目標	実習内容
1. 妊婦または事例の妊娠各期に必要な保健相談内容が理解できる。	1) 妊婦健診の目的、諸計測、診察の介助 2) 妊娠各期に必要な保健相談・教育、マイナートラブルの対処 3) 出産準備教育(母親・両親学級、パースプラン、生活の変化、家族役割の変化)

2. 産婦または事例の分娩経過に応じた援助が理解できる。	1) 分娩期の援助 産痛緩和への援助(呼吸法、リラクゼーション、体位の工夫)バースプランの実施 日常生活の援助、胎児心拍数の変化、産婦の産む力を引き出す関わり 2) 分娩直後の援助 母児対面への援助、カンガルーケア、清潔、休息への援助(清拭、更衣、水分補給、安静)子宮復古促進の援助、胎盤精査
3. 褥婦または事例の全身の復古に向けた援助とその根拠が述べられる。	1) 生殖器復古促進に向けたセルフケアへの援助 子宮収縮の促進、悪露排泄の促進、後陣痛の緩和、輪状マッサージ、産褥体操、定期的な排泄、直接授乳 2) 全身状態の回復促進に向けたセルフケアへの援助 離床、休息、排泄、食事・水分、清潔、不快症状の緩和
4. 母乳栄養確立に向けた援助とその根拠が述べられる。	1) 乳汁分泌促進に向けた援助 早期頻回授乳、授乳指導(乳頭刺激、マッサージ、適切なポジショニング・ラッチオン、搾乳など)日常生活の整え方(食事・水分・休息)
5. 新生児または事例の生理的変化が正常に経過するための援助とその根拠が述べられる。	1) 出生直後～24時間の援助 呼吸・循環確立、体温維持のケア、アプガールスコア判定、バイタルサイン測定、母児識別票装着、身体計測、点眼、臍処置、全身精査 2) 新生児の経過に合わせた援助 診察・検査見学:1日目・退院時診察、先天代謝異常検査、K ₂ シロップ与薬 看護:保温、沐浴、清拭、臍処置、衣服の着脱、おむつ交換、哺乳・排気、感染予防、事故防止(熱傷・転落・取り違い・誤嚥・窒息・盗難など)
6. 褥婦または事例の心理的特徴を踏まえた看護者の関わりについて述べられる。	1) 母親(父親)役割取得過程を促進する関わり 早期母子接触、早期授乳、バースレビュー、母親になることへの適応過程(受容期・保持期・開放期)合わせた看護者の関わり 2) 対象の経過に合わせた保健指導と看護者の関わり 母子同室指導、授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導 3) 退院後の生活に向けた保健・医療の連携 産後の支援体制、職場復帰、産後うつ病スクリーニング(EPDS、ボンディング質問票)、養育支援、2週間健診、産後健診、産後ケア
目標Ⅲ. 妊娠期から子育て期の切れ目ない母子の支援体制と多職種との連携、看護者の役割を理解する。	
行動目標	実習内容
1. 妊娠期から子育て期にある対象の現状と課題を知る。	1) 対象を取り巻く地域の現状と課題理解 2) 対象の生活理解に向けたインタビューの実施
2. 地域における母子の支援体制と看護職の役割、多職種との連携を理解できる。	1) 保健・医療・福祉の多職種連携と協働、支援の実際の見学 2) 関係法令に基づく母子保健事業、子育て世代包括支援センター事業、子育て支援センターの目的と主な役割 3) 対象への看護者の関わりを見学
目標Ⅳ. プレコンセプションケアの必要性と看護者の役割を理解する。	
行動目標	実習内容
1. プレコンセプションケアの必要性と看護者の役割を考察することができる。	1) 学内におけるプレコンセプションケアの企画 2) プレコンセプションケアに関する保健指導の実施

